2024.7-8
群馬大学中央図書館
教員展示

いちかわ　ひろや
市川寛也 准教授

共同教育学部
美術教育講座

妖怪研究家の市川准教授にインタビュー

経歴

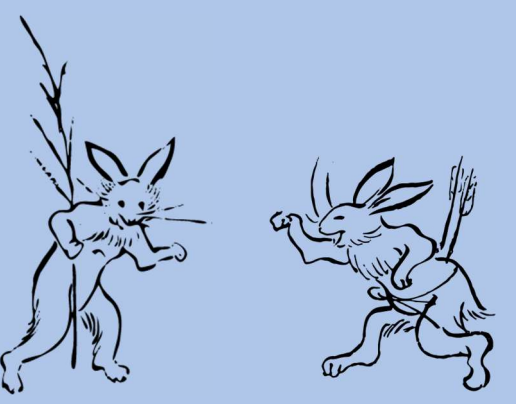
1987年、茨城県生まれ。博士（芸術学）。東京都豊島区で文学・マンガ分野の学芸員を担当した後、筑波大学、東北芸術工科大学の教員を経て現職。専門はアートプロジェクトの理論と実践、妖怪を中心とする地域文化資源論など。

研究者になろうと思ったきっかけは？

筑波大学で芸術支援学を学び、美術教育や美術論、博物館学などを通して芸術を取り巻く環境を形成するための様々な方法について理論と実践の両面から研究する新しい領域に興味を持ったことです。卒業論文では、コミュニティを形成するアートの機能を中心に研究に取り組み、修士課程では、地域の無形文化に着目し、博物館がどのように扱うかについて研究を進めました。
フィールドとして取り上げたのは、岩手県遠野市や徳島県三好市山城町です。博士論文では、修士論文の内容を発展させながら、妖怪文化の現代的活用に焦点を当てて研究に取り組みました。また、博士課程に進学するのとあわせて、東京都豊島区のミュージアム開設準備の仕事に取り組み、博士課程修了後は、筑波大学や、東北芸術工科大学で教員を務め、現在に至っています。

興味を持ち始めたのは？

妖怪研究への興味の源泉として、幼少期から妖怪に興味を抱き続けていました。中学生時代には「総合的な学習の時間」で「妖怪との共生」をテーマに設定し、妖怪に対する興味を深めました。研究では妖怪がいる/いないの存在論ではなく、妖怪が人々の文化においてどのように位置付けられてきたかに立脚して取り組んでいます。特に、日本国内での妖怪の多様性やその生み出し・伝承に関心を寄せています。



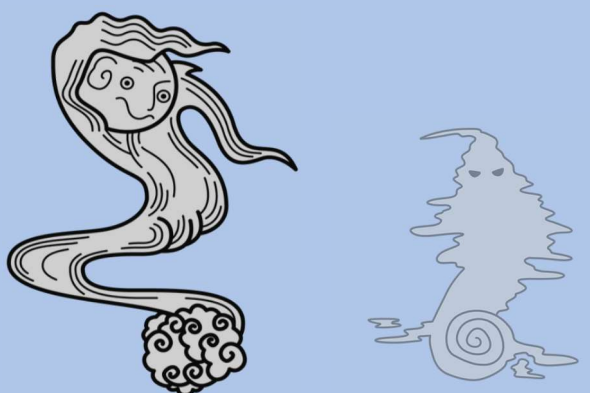
妖怪は美術教育では
どのような教材ですか？

大学4年生の2008年から「妖怪採集」というワークショップに取り組んできました。まちを歩きながら妖怪がいそうな場所を探し出し、そこにいるであろう妖怪を想像する活動です。水戸市、川口市、荒川区、大阪市などで開催しました。

図画工作や美術の授業では、目に見えないものをイメージする力が重要であり、妖怪は過去の人々が環境を解釈して作り出した創作物とみなすことができるかもしれません。ここに妖怪と美術教育の共通性を見出しています。

群馬で妖怪採集は？

これまで群馬県内で妖怪採集をしたことはありませんが、夏休みに中之条町で開催される「サマーアートスクール」において初めて開催します。また、埼玉県坂戸市でも妖怪採集のワークショップを実施する予定です。



煙羅煙羅

群馬特有の妖怪がいたら？

群馬県内で有名な妖怪存在としては、館林市の茂林寺に伝わる「分福茶釜」などが挙げられます。いわゆる化け狸の伝承です。また、県内には山がたくさんあるため、天狗にまつわる伝承もたくさん残っています。

会いたい妖怪は？

調査対象なのでどのような妖怪でも分け隔てなく対応する所存です。ちなみに、今年の夏には徳島県三好市で高校生と一緒に「ヤギョウサン」を調査する計画を立てていますので、うまい具合に情報が収集できればと思います。

自分を妖怪に例えると？

高校生の頃には、クラス文集で同級生を妖怪に例えると、というコーナーを設けていました。その時は自分自身の欄には「煙羅煙羅」と表記していました。今はまた変わってきたかもしれませんね。

学生時代に読んだ本やおすすめは？

学生時代に読んだ本で、現在の私にも大きな影響を与えているのは、宮沢賢治の『農民藝術概論綱要』です。芸術という概念をいかなる範疇で捉えるか。私の芸術観が大きく揺さぶられました。これと関連して、鶴見俊輔の『限界芸術論』もおすすめです。

学生時代に熱中したことは？

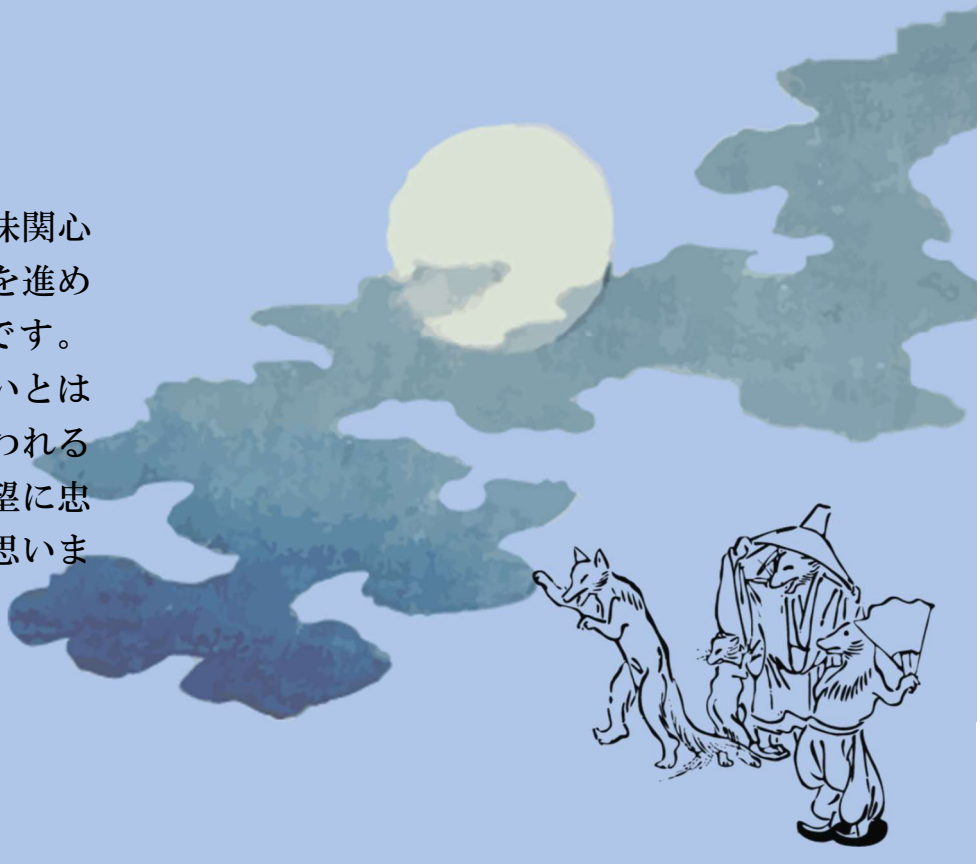
自信をもって「これに熱中していました」と言えるものは特にありません。その時々にできる調査や研究などをコツコツとやってきました。最近はいろいろと忙しい日々を送っているので、心にゆとりをもって何かに取り組みたいものです。

学生時代に印象に残っている先生は？

特定の先生に対する印象というわけではありませんが、実際に大学教員として授業をする際には、大学生時代に受けていた講義のノートなどをふりかえり、自身の授業にも生かしてきました。

群馬大学生の印象は？

群馬大学の学生として括ってしまうことは難しいですが、共同教育学部の学生については取得単位数も多く、実習の機会もたくさんあるため、よく頑張っているな、と感心しています。

学生へメッセージ

大学生活は、自分自身の興味関心に応じて利害関係なしに研究を進めることのできる貴重な時間です。日々、授業や実習などで忙しいとは思いますが、目先の利益に捉われることなく、自分自身の学的欲望に忠実に時間を過ごしてほしいと思います。